santec

証券コード 6777

2011年度
通期決算の概要

2012年5月14日

2011年度　連結決算ハイライト

光部品が大幅減　光測定器に注力も及ばず

- 売上高 2, 510百万円（前年比 12.4%減）
  - 光部品　　前年比　34.8%減　主力の中長距離向けで「新技術待ち」投資抑制
  - 光測定器　　前年比　17.9%増　新興国の光部品生産工程 測定器需要堅調
  - ソリューション　前年比　11.6%増　利用者着実に積み上げ

営業益・経常益は損失を計上　慰労金返上で配当へ

- 営業損失 108百万円　経常損失 110百万円（共に2期ぶりの赤字）
  - 為替差損　25百万円　3月末の円高緩和で圧縮
- 特別利益を計上　最終利益 104百万円（前年比10.7%減　2期連続黒字）
  - 打切り支給済取締役退職慰労金の返上　138百万円
  - 投資有価証券売却益　133百万円
  - 配当　期末　3円を予定（2期連続配当）

2011年度実績

売上高前年比 12．4％減　減収減益

（単位　百万円）

	10年通期	11年当初予想	11年修正予想	11年通期	前年度比		当初予想差異	
売　上　高	2,866	3,200	2,460	2,510	▲355	▲12.4%	▲689	▲21.5%
営業利益	105	157	▲130	▲108	▲213	▲202.7%	▲265	▲168.7%
経常利益	53	134	▲195	▲110	▲163	▲306.1%	▲244	▲182.3%
当期純利益	117	123	15	104	▲12	▲10.7%	▲18	▲14.9%

※「当初予想」は、2011年5月13日発表の業績予想値、「修正予想」は、2012年2月3日に発表した「業績予想の修正に関するお知らせ」の数値であります。

2011年　総資産および純資産の状況(連結)

（単位　百万円）

	10年期末	11年期末	前年度末比	
総　資　産	7,548	7,693	＋145	＋1.9%
純　資　産	6,591	6,903	+312	+4.7%
自己資本比率(%)	87.3%	89.7%	-	+2.4 (%)
一株当たり純資産（　円　）	551.06円	577.20円	26.14円	+4.7%

概　況

総資産　増加

流動資産:
有価証券が減少
固定資産:
投資有価証券が増加

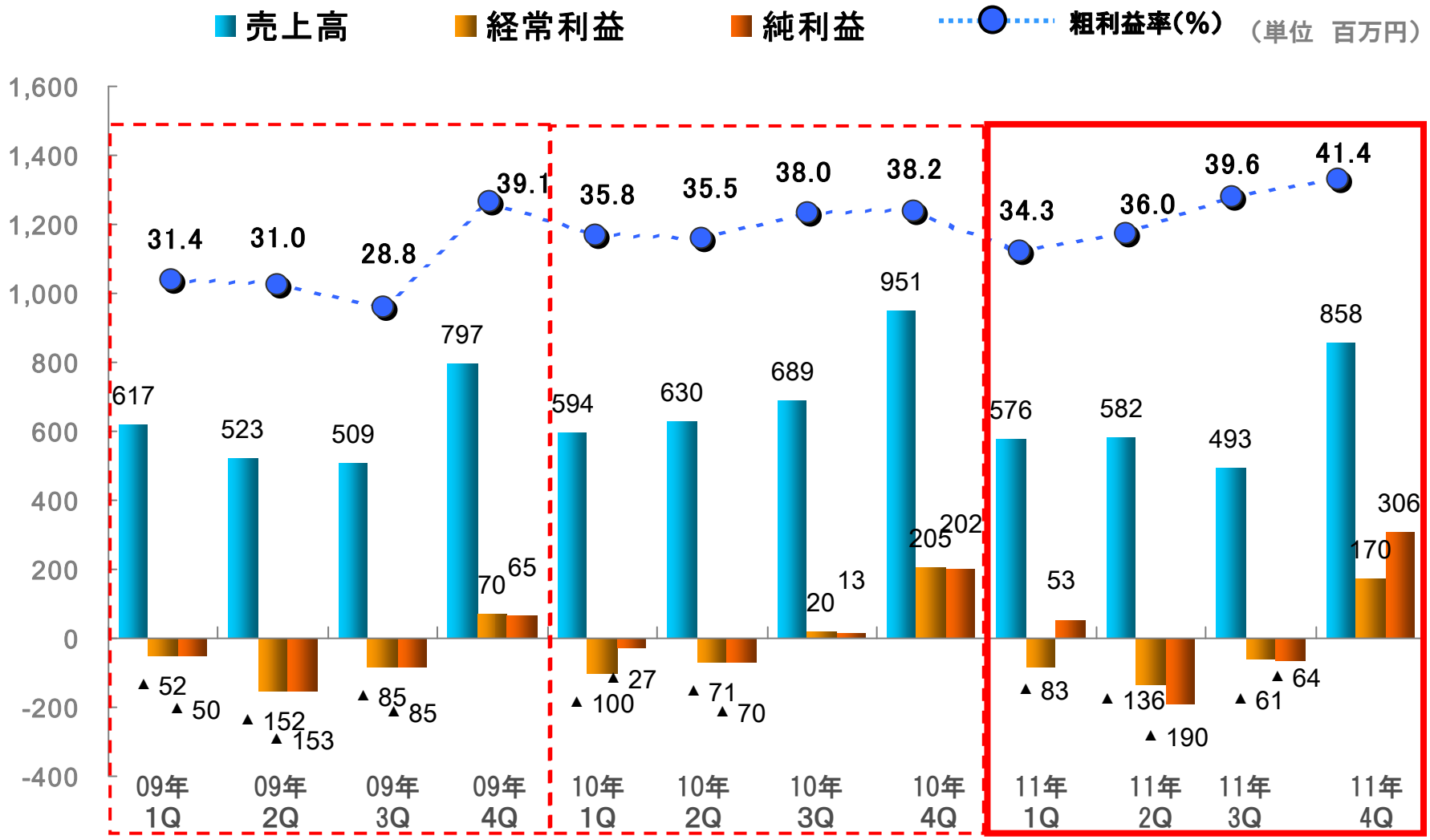
純資産　増加

利益剰余金の増加　+68

有価証券評価差額金　+241

業績の推移 （四半期・連結）

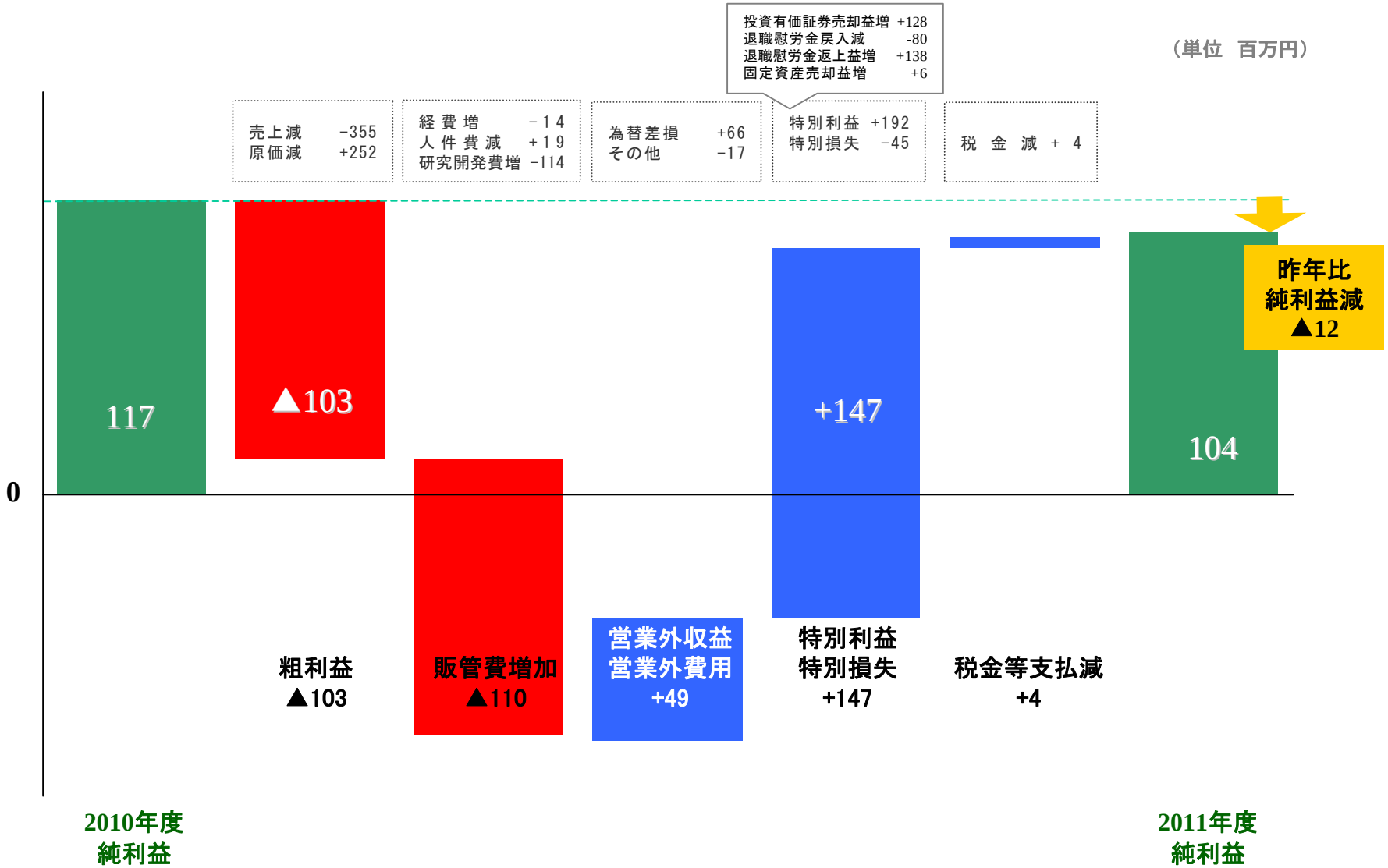
第4四半期に経常黒字　光測定器増加で粗利率向上



当期純利益の前年度対比分析（連結）

特別利益・為替差損減少で利益維持

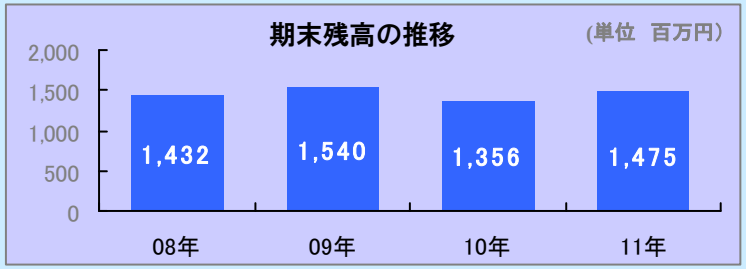
（単位　百万円）

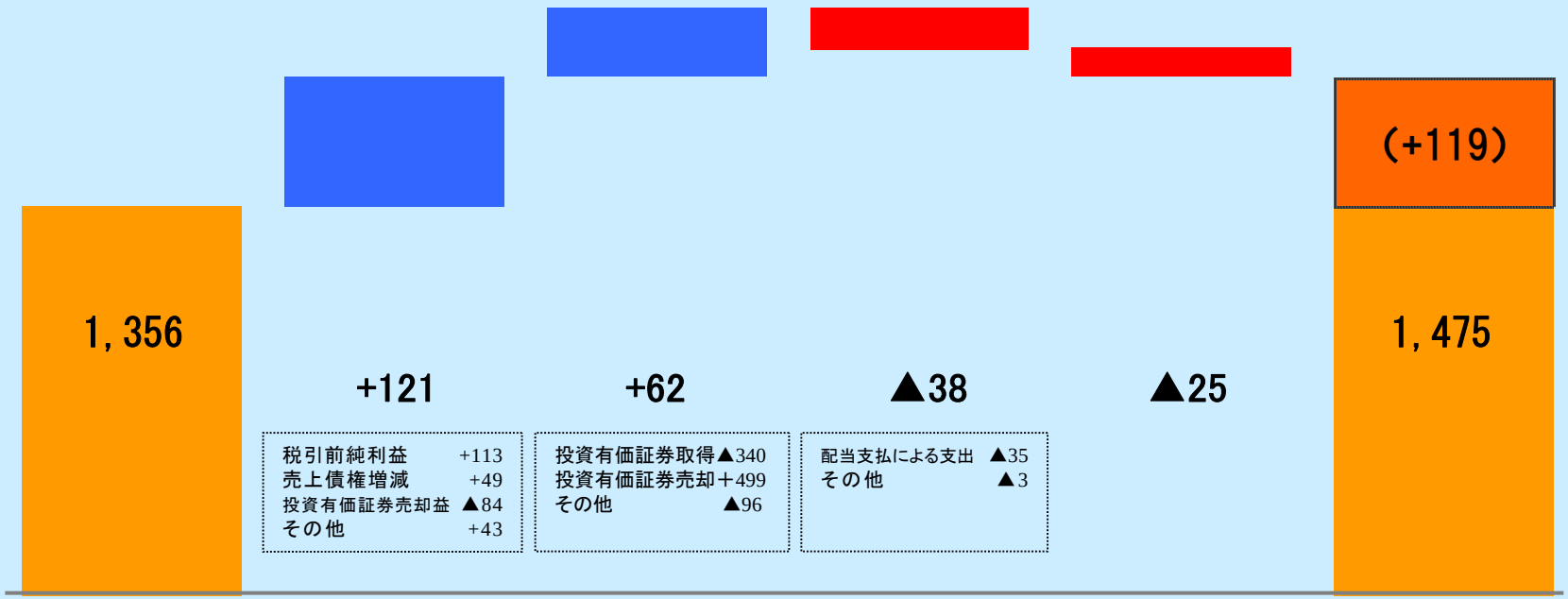


キャッシュ・フロー （連結）

（単位　百万円）

10年度のCF	+246	▲291	▲3	▲134	▲183





事業別売上高 （連結）

光部品大幅減　他事業健闘でもカバーできず

（単位　百万円）

	10年通期	構成比	11年通期	構成比	前年比	伸長率
光部品	1,616	56.4%	1,054	42.0%	▲562	▲34.8%
光測定器	976	34.1%	1,151	45.9%	+174	17.9%
（内　OCT）	453	15.8%	493	19.7%	+39	8.8%
システム・ソリューション	273	9.5%	305	12.2%	+31	11.6%
合計	2,866	－	2,510	－	▲355	▲12.4%

概　況

光部品　大幅減少

- 端境期の投資抑制
- 新製品開発加速で対応

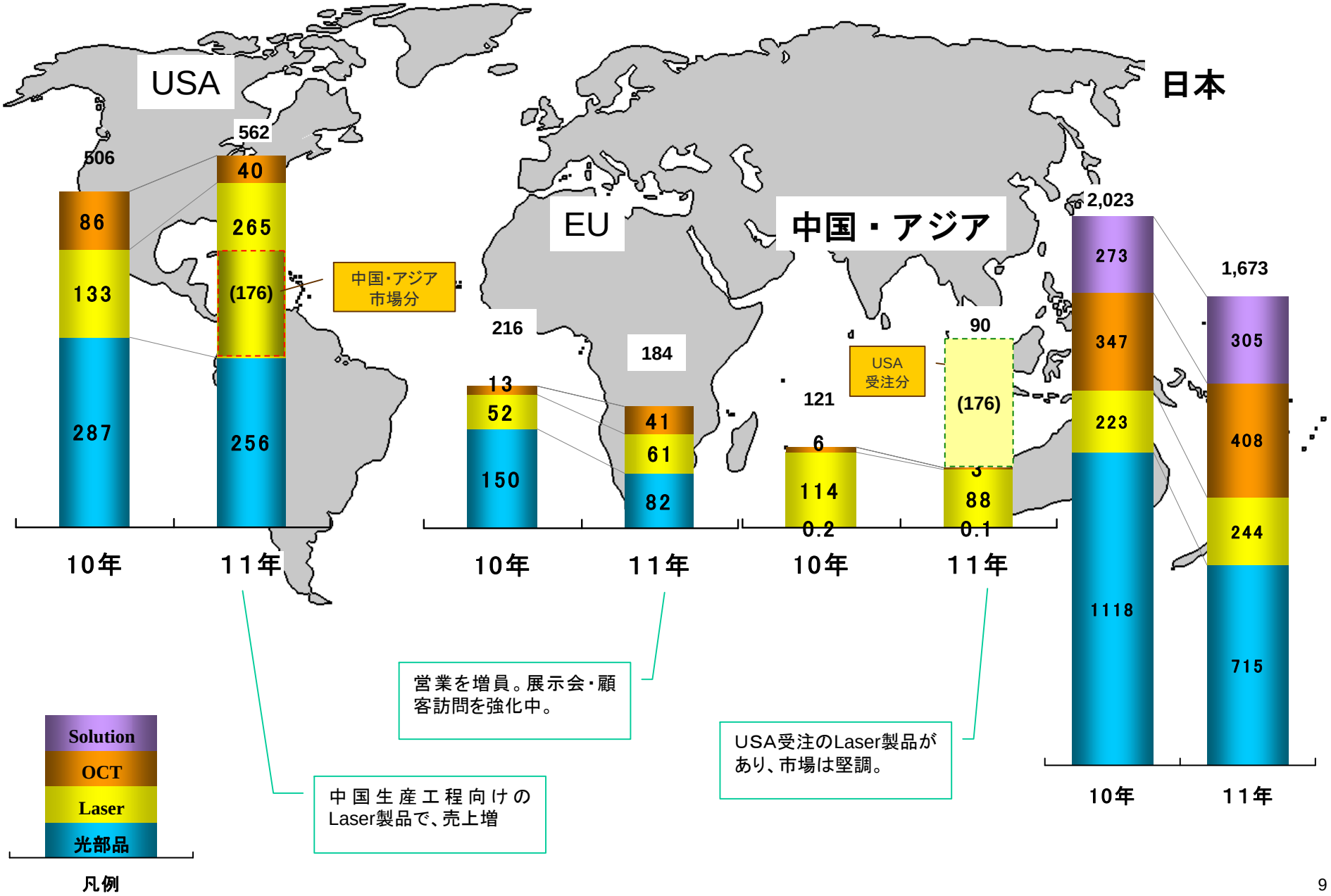
光測定器・OCT　増加

- 新興国生産工程向け好調
- OCT　OEM販路拡大目指す

ソリューション 成長

- 売上高3億円を超過
- 新製品RemoteView投入

地域別事業別売上高（連結）



2012年通期予想（連結）

新製品の立上げと共に早期回復を目指す

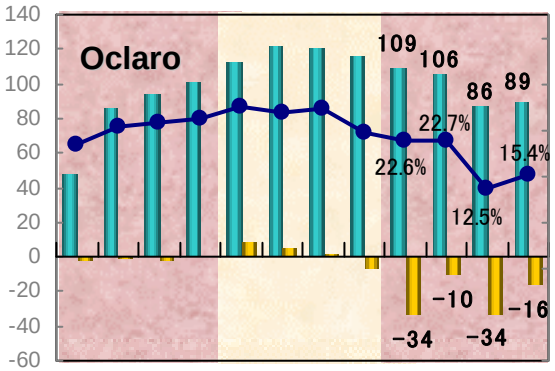
（単位　百万円）

	11年通期	12年通期業績予想	11年度比（通期）	
売上高	2,510	3,045	+534	+21.3%
営業利益	▲108	125	+233	―
経常利益	▲110	135	+245	―
純利益	104	120	+15	+14.5%
年間配当（円）	3円	3円	―	―

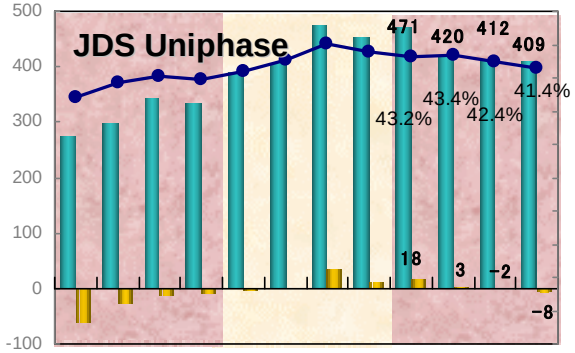
■　米ドル想定為替相場
平成25年3月期における米ドル為替相場は、「期中平均77円　期末82円」と予想しております。

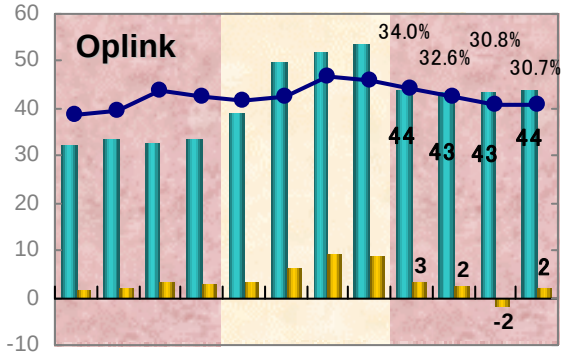
ベンチマーク　四半期業績の推移比較

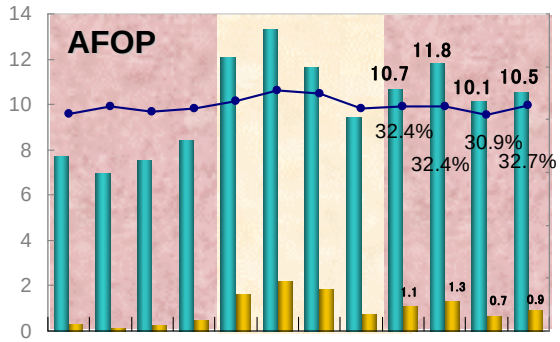
業界全体で減速傾向



※タイ洪水の影響による減収減益

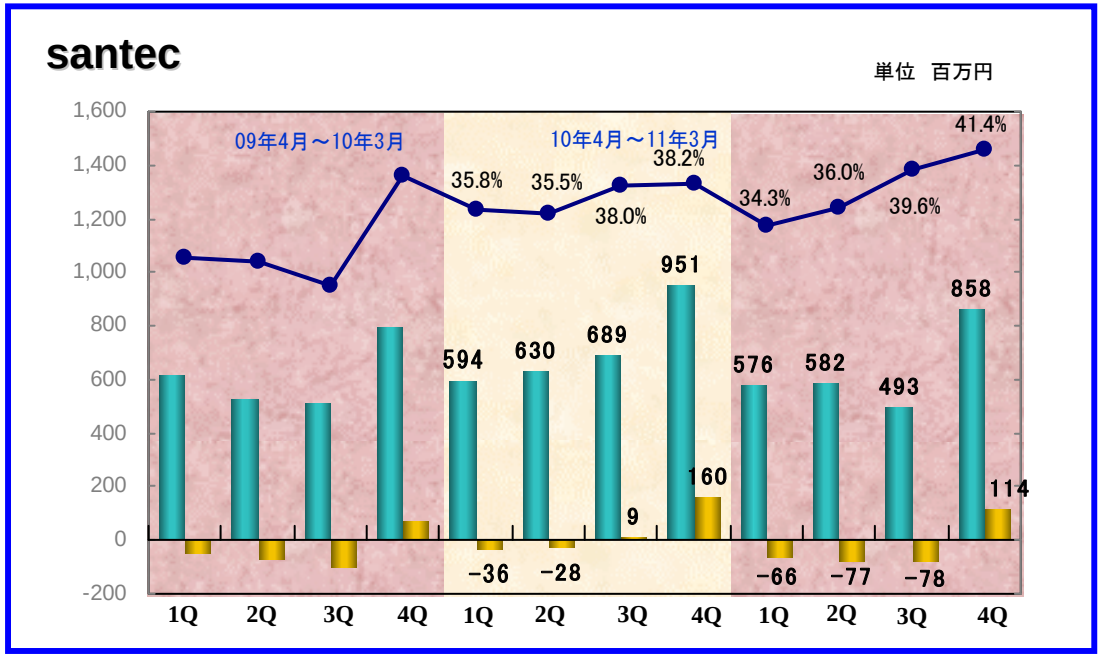






凡例　　単位　百万ドル

- 売上高(Net Revenue)
- 営業利益(Operating income)
- 粗利率 % (Gross Profit / Net Revenue)



※各社開示資料から弊社作成。
※各社とも決算期が異なりますが、便宜上当社グループの決算期にそろえて色分けしています。

santec

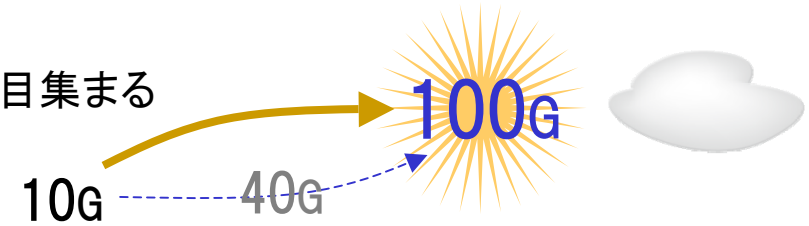
市場動向と
当社の事業戦略

光通信市場のゾーン別状況

LONG HAUL 長距離通信

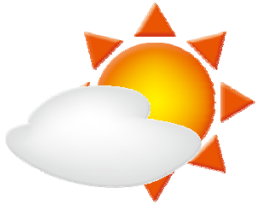
- Google等の自社所有専用線増加中
- 次世代と目された40Gより優位な100G技術に注目集まる
  - 100G製品確立まで投資抑制の動き

※ 100G = 100Gbps。 1波長で1秒間に送れる情報量を指します。



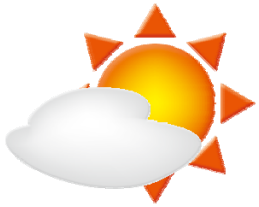
METRO 中距離・都市間通信

- 携帯電話キャリア　スマートフォン拡充で無線網を積極増強
  - 顧客単価の引き上げに寄与
  - 当面の投資は、無線網拡充に重点
- 日本のNGNインフラは主要都市を網羅済
  - 震災を期に緊急時を見据えた見直しあるか

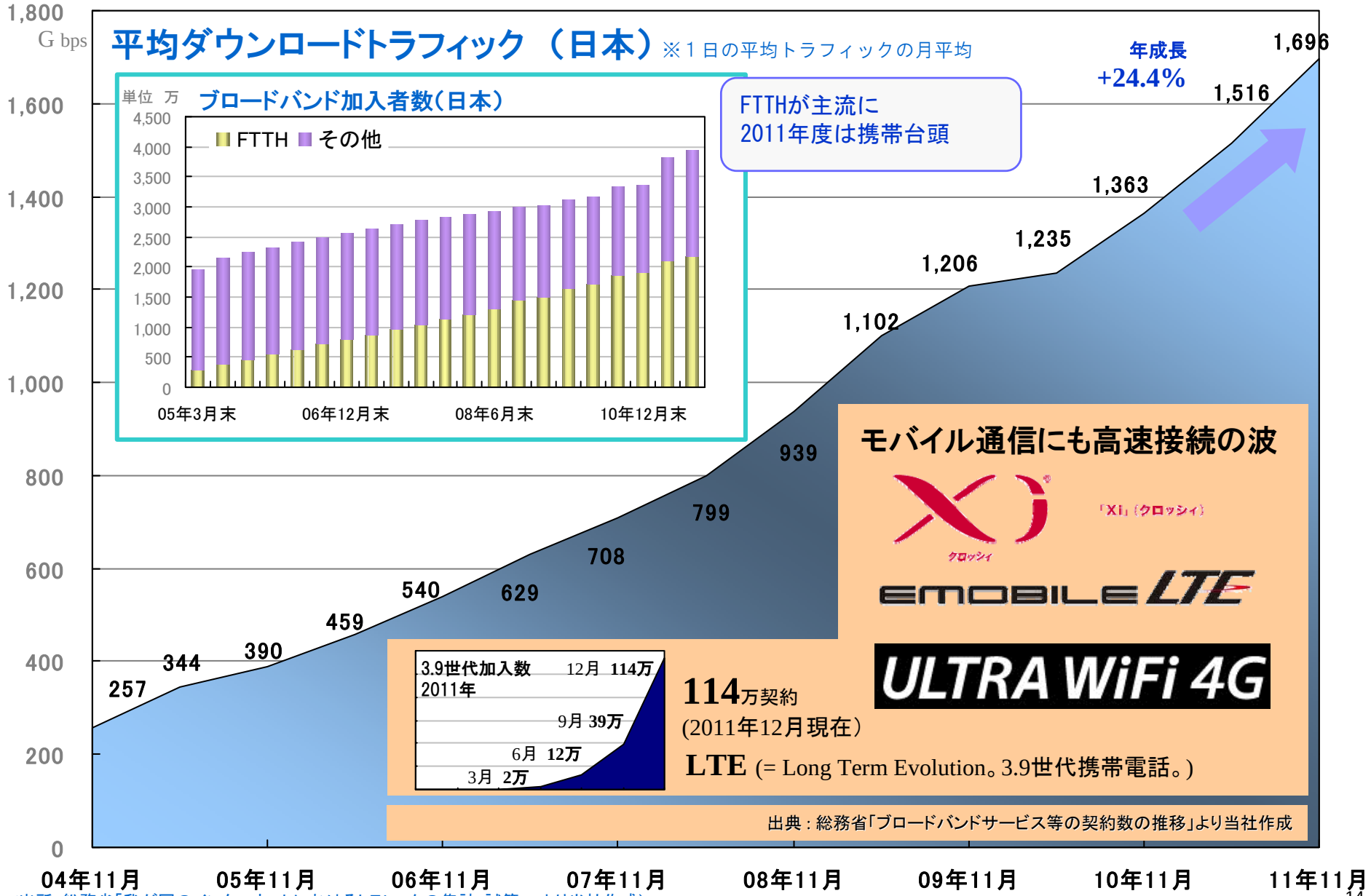


ACCESS 局舎＝加入者間通信

- 成長鈍化は見られるが、一定の期待はできる
  - 日本ではFTTHがブロードバンドの過半数に
  - 新興国でもブロードバンド化進む
    - 上位網押し上げ効果に期待



通信量増加　スマートフォンアクセス急増

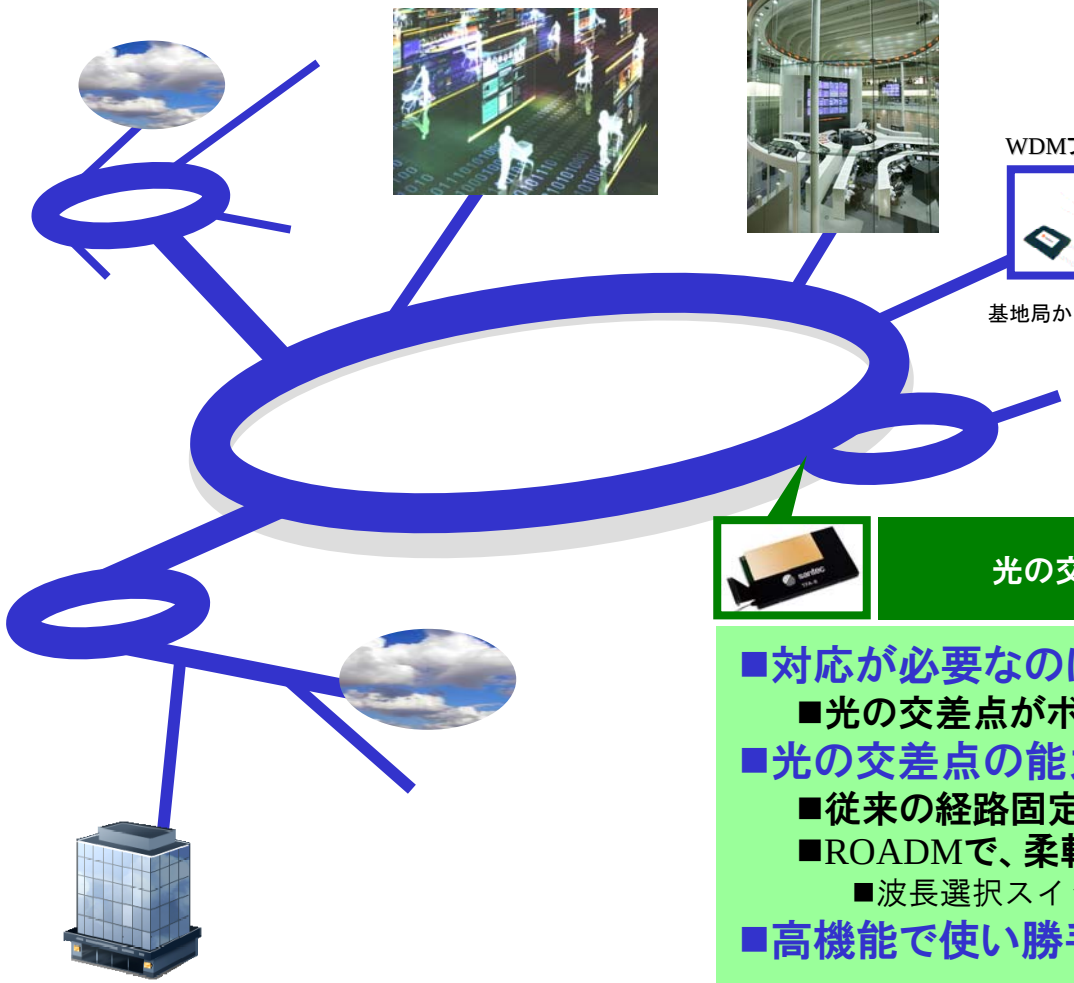


(出所：総務省「我が国のインターネットにおけるトラヒックの集計・試算」 より当社作成)

※表中の図版はNTT DoCoMo, イーアクセス, ソフトバンクモバイルのそれぞれのサービスロゴ・商標です。

続く通信量増大と求められる高度な光技術

進むクラウド化
データもアプリケーションも、ネットワークの向こう側に。



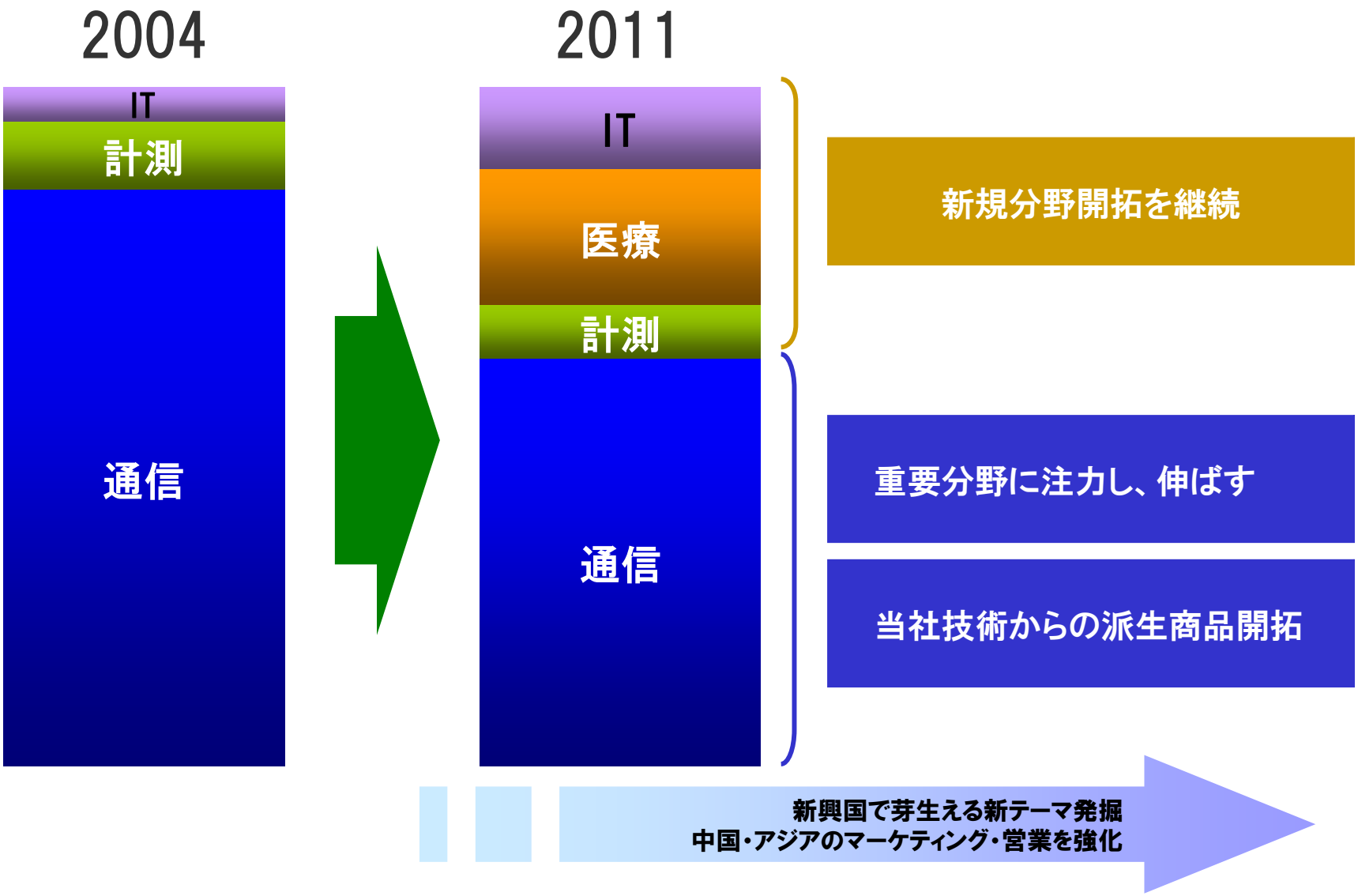
スマートフォン全盛
携帯端末からのネットワーク接続が普通となり、新たなデータ通信需要が生まれている。

光の交差点を管理するROADMと波長選択スイッチ

- **■対応が必要なのはファイバだけではない**
  - **■光の交差点がボトルネック　シームレスな経路選択が必要**
- **■光の交差点の能力と柔軟性に課題**
  - **■従来の経路固定式では対応不可能**
  - **■ROADMで、柔軟な対応を可能に**
    - ■波長選択スイッチ（WSS）＝遠隔で柔軟に経路変更が可能
- **■高機能で使い勝手のよいWSSの開発急ぐ**

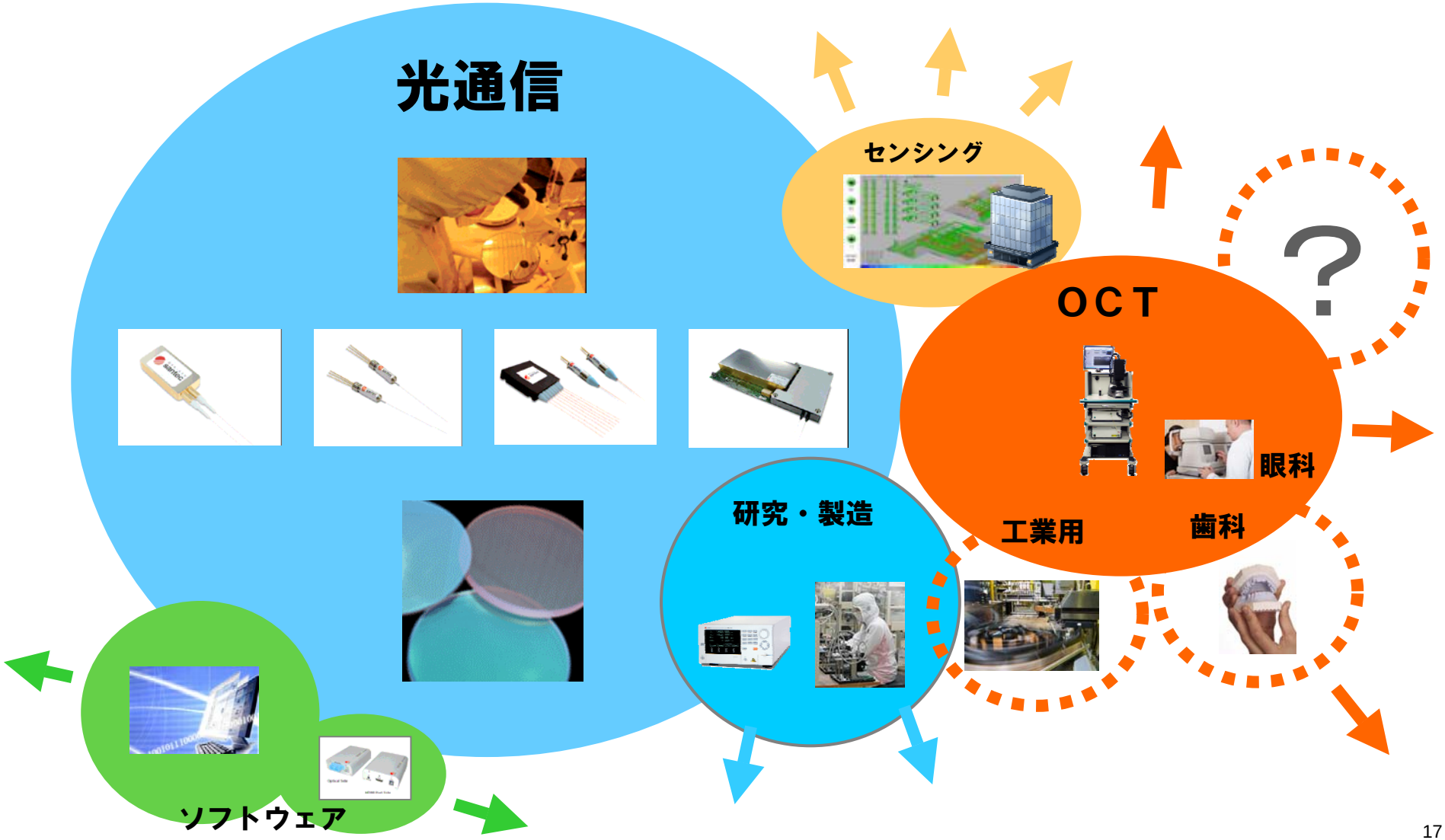
当社製品展開分野の変化と今後の戦略

数年来の取組により「通信以外」が育つ



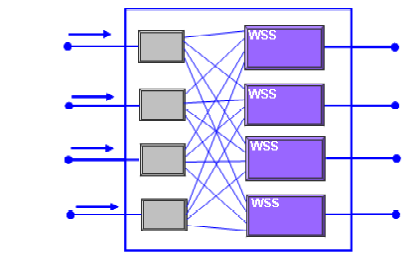
培った光技術で活躍の場を広げる

通信以外の分野を育て、経営磐石化



当社の主なTopics

PREDICT事業から開発を受託



波長選択スイッチ模式図

CO2 排出削減、省エネルギー化に貢献する情報通信技術分野のイノベーションを創出し、研究開発を促進していくことを目的とした総務省実施の競争的資金制度である“PREDICT”に、当社事業が採択されています。通信品質を維持しながら消費電力を抑える次世代ROADM装置「フレキシブル・グリッド型光ノードシステム」の開発を加速してまいります。

MEMS利用の小型OCT光源　HSL-mini発表

光の性質を応用して、無害・非破壊の断層画像を取得する「ＯＣＴ」製品に、当社が光部品製品で培ってきた微細駆動技術＝ＭＥＭＳを応用した新製品を発表しました。

ＭＥＭＳ技術を用いることにより、本体を劇的に小型化することに成功。医療機器や工業用測定装置にコンパクトに組み込むことができると注目を受けています。

企業向けPC遠隔操作ツール RemoteView 発売

外出先から、「安全かつ快適に」自席のＰＣを操作できたら、劇的に生産性が高まるのに。

お客様からのご要望に応える新製品をリリースしました。

RemoteViewは、大企業での利用を前提とした、エンタープライズ向けPC遠隔操作ツールです。他に類を見ない快適さに、大企業の求めるセキュリティと監視機能を付与し、上場企業様からも多くの引き合いを頂いております。

ELEX 2010年度最優秀論文表彰

当社研究者が関与する論文「Optical coherence tomography by all-optical MEMS fiber endoscope」（MEMSファイバー内視鏡を用いたOCT）が、電子情報通信学会が発行する英文論文誌「IEICE Electronics Express（ELEX）」における2010年度の最優秀論文として表彰をうけました。

電子情報通信学会は、電子工学、情報工学、通信工学の三分野を取り扱う、日本有数の大規模の学会のひとつであり、受賞を大変栄誉なことと感じております。

santec

2012年度

全社基本方針と経営目標

2012年度　全社基本方針と経営目標

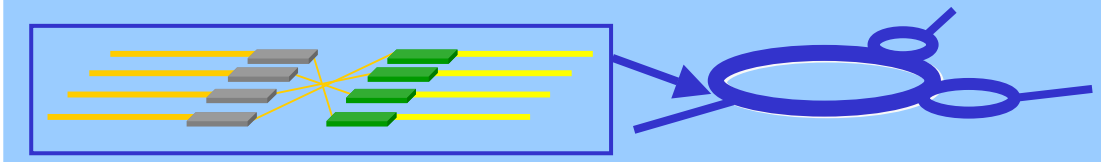
基本方針	新製品創出とビジネスユニット制の強化
経営目標	① 新製品による成長基盤構築 ・競争に勝ち抜く、高付加価値製品の開発 ・次世代技術でいち早く市場での地位を確立 ② ビジネスユニットとPLMを軸とした成長牽引 ・PLM＝プロダクトラインマネージャに強い権限 ・市場対応と製品開発の更なるスピードアップ ③ 活力ある業務体制作り ・ビジネスユニット制を支える体制の構築 ・組織のモラールを高める仕組みづくり

重点課題

① 新製品による成長基盤構築

光部品製品

光の交差点を制御する　フレキシブル・グリッド



光測定器製品

市場優位性を維持する後継機種のリリース

波長可変光源の上位機種

波長可変フィルタの後継機種

OCT製品

顧客ニーズに対応　小型光源・コンパクトOCT

小型OCT光源の市場投入

オールインワンOCT市場開拓

システム・ソリューション

ブロードバンド時代ならではの新製品開拓

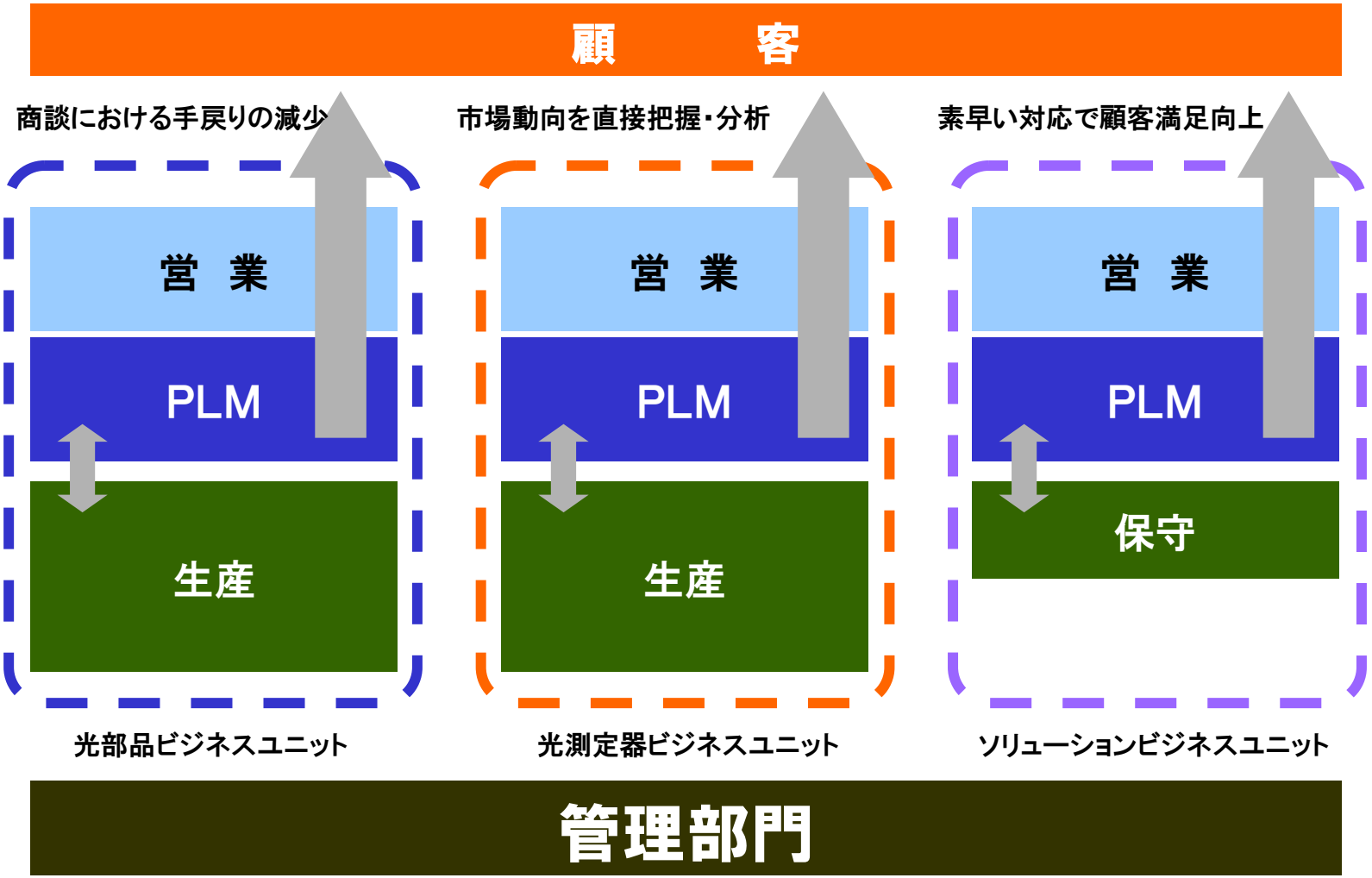
スマートフォン活用

ネットワーク活用

重点課題

② ビジネスユニットとPLMを軸とした成長牽引

顧客との接点を強め、市場対応力とスピードを大幅に向上させる

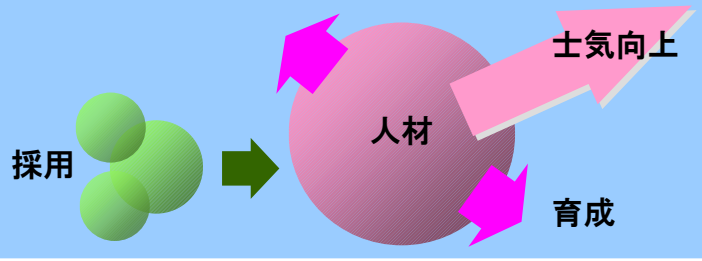


重点課題

③ 活力ある業務体制作り

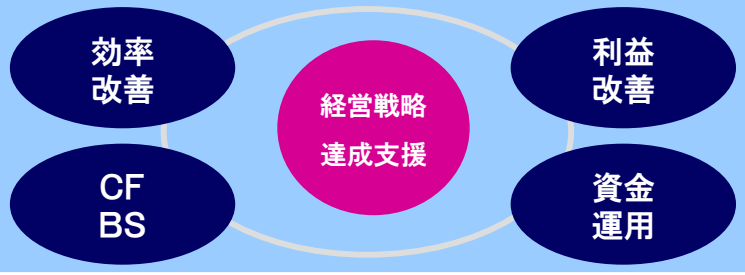
人　事　体　制

人材確保　人材育成　士気を高める人事制度



財　務　体　制

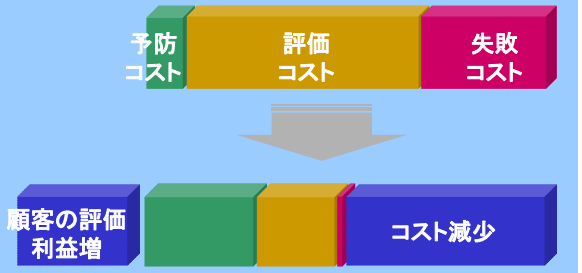
ビジネスユニットの施策を支える財務体制



品　質　保　証

利益を生む品質保証体制

品質向上による顧客満足と
利益確保を両立



santec

The Photonics Pioneer of Networking

―― ネットワーク時代の光技術先駆者になる ――

本資料における当社の今後の計画、見通し、戦略等の将来予想に関する記述は、当社が現時点において合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等の結果はこれらの見通しと異なる可能性がありますことをご了承ください。

本資料に関するお問合せ先

santec株式会社
業務部　管理グループ長　水島 大介
電話　0568-79-3535(代表)
URL: http://www.santec.com/jp

〒485-0802
愛知県小牧市大草年上坂5823
フォトニクスバレー　大草キャンパス